

## 小金井市食育推進計画（素案）に対する意見及び検討結果について（概要）

小金井市食育推進会議では、小金井市食育推進計画（素案）に対するパブリックコメントを実施しました。その結果について、下記のとおり公表します。

なお、お寄せいただいたご意見と検討結果については、小金井市ホームページに掲載して公表するほか、保健センター、市役所第二庁舎1階受付、情報公開コーナー（同6階）、婦人会館、図書館（本館）、公民館各館、福祉会館、総合体育館でご覧いただけます。

### 記

#### 1 施策の名称 小金井市食育推進計画（素案）

#### 2 意見の募集方法

##### (1) 意見募集期間

平成25年8月19日から9月18日まで

##### (2) 意見提出方法

直接持参、郵送、ファクシミリ、電子メール

#### 3 意見の提出状況

##### (1) 提出人数

区分	直接持参	郵送	ファクシミリ	電子メール	計
個人	1人	0人	2人	8人	11人
団体	0人	0人	0人	0人	0人
計	1人	0人	2人	8人	11人

##### (2) 延べ意見数

35件

##### (3) 意見内容の内訳

ア 小金井市における食育の基本方針について	8件
イ 取組の指標について	1件
ウ 具体的な施策の展開について	1件
エ 食育の土台づくりについて	4件
オ 生涯にわたるライフステージに応じた食育推進について	14件
カ “Koganei-Style” の地域展開について	6件
キ 関係者の役割について	1件

#### 4 提出された意見と検討結果

別紙のとおり

#### 5 問合せ先

小金井市福祉保健部健康課健康係

電話 042-321-1240 FAX 042-321-6423

E-Mail s050499@koganei-shi.jp

(別紙) パブリックコメント結果

小金井市食育推進計画（素案）に対する意見及び検討結果について

意見募集期間：平成25年8月19日（月）～9月18日（水）

意見提出数：11人・35件

番号	項目	寄せられた意見	意見に対する検討結果
1	3-（1）-小金井市における食育の基本方針	●素案には食育の基本方針として「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」をキーワードとしてありますが、ここに「安全」の項目を加えてください。 昨今は食品添加物、農薬、輸入食材、そして放射能汚染など、安全をおびやかすものがより多く深刻になっています。具体的に記載してその対策を検討してください。	●食の安全は小金井らしい食生活のキーワード「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」において、「環境」に「食の安全・安心」として位置付けられており（3ページ下の図参照）、重要な課題であると考えています。そのうえで、今回の改定では、13ページの取組の指標に、食の安全を確保し、鮮度にこだわることや、循環社会の実現を目指し環境に配慮するため「食生活に地産地消を取り入れる」という項目を新たに追加しました。さらに、15ページ（1）食育の土台作り②情報の整備の前文の最後に、「特に、食の安全については重視し、適切な情報発信に努めます。」を追加します。
2		●食の安全と言っても漠然としています。私たちをとり巻く食品の汚染（放射能、遺伝子組み換え、照射食品、環境ホルモン、ポストハーベスト）等について、しっかり学び伝え、できる限り排除する努力をするために少し具体的に強調して書いていただければと思います。 （他に同様の意見5件）	

3		<p>●現在、最も必要なのは「食の安全」です。しかし食育推進計画（素案）にはこの部分が全くといっていいほど触れていません。原発の放射能の影響だけでなく、今後はTPP参加によって外国から安い農産物が大量に輸入され、遺伝子組み換え食品など生態系に影響を及ぼす可能性も出てきます。</p> <p>どこの市にもあるような計画ではなく、給食の食材の徹底した産地制限や放射能測定など、市民に本当に必要な、市民に寄りそった、小金井市として特色のある食育推進計画の策定を望みます。</p>	<p>●食の安全は小金井らしい食生活のキーワード「野菜」「団らん」「ふれあい」「環境」において、「環境」に「食の安全・安心」として位置付けられており（3ページ下の図参照）、重要な課題であると考えています。個別の具体的な内容に関しては、貴重なご意見として受けとめさせていただきます。ありがとうございました。</p>
4	3－（2）取組の指標	<p>●子どもの孤食について 提供する場をもうけないと解決できないと思います。 朝ご飯ではないが、豊島区ではNPO法人が取り組んでいる。</p>	<p>●13ページの取組の指標の中に「家族と一緒に食事をする」として設けているように、こどもの孤食対策は非常に重要と考えておりますので、いただいたご意見のような取組も貴重なご意見として受けとめさせていただきます。</p> <p>また、Koganei-Styleの「団らん」には、家の人や友人・知人と団らんを大切にしたい食事をすることを趣旨としております。本計画の取組の指標としては都の計画に合わせて「家族と一緒に食事をする」となっていますが、家族だけではなく、友人・知人と食事を共にすることも含めた「団らん」を推進していきます。</p>
5	4 具体的な施策の展開	<p>●ライフステージで区切るのではなく、一人ひとりを一貫してフォローする仕組みも作ってほしいです。</p>	<p>●国、都の食育推進計画においても「ライフステージに応じた間断ない食育の推進」を掲げており、本計画においても同様にライフステージごとにさまざまな施策で食育の推進に取り組んでおります。また、ご指摘のとおり、ライフステージにとらわれ</p>

			<p>ず個別の問題に対応していくことも必要と考えておりますので施策の中には、19ページの栄養個別相談等の対象世代を限定しないものも設け、一人ひとりを一貫してフォローできるように取り組んでいます。</p>
6	<p>4-(1)-①啓発活動の充実</p>	<p>●市が取り組む主要テーマが見えていません。明快なテーマと解決法を提案します。TPP問題、中国の安い食材等、食の安全が心配です。吉田俊道氏の一般市民向け「生ごみで元気野菜作り、元気人間作り」の活動と、ブラジル生まれ、家庭菜園から本格農家向け「炭酸循環農法」の普及活動です。</p> <p>この2つの活動をうまく取り入れて、食と農の問題を解決する「小金井モデル」を確立し、「人に優しい地域社会(小金井)、日本、世界に貢献する活動」・・・第一歩を踏み出しましょう！！</p> <p>&lt;具体的な提案&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、保育園、学校等で取り組む</li> <li>・市民全体に知ってもらう</li> <li>・「生ごみで、プランターで元気野菜作り」に取り組んでもらう。</li> <li>・「小金井 元気野菜・・・」の会が「東京学芸大で実践している農法」の農家への普及</li> <li>・「農業準備校」の検討</li> <li>・農家が作った健康野菜から、一次、二次、三次の六次産業化を実現 等</li> </ul>	<p>●ごみ削減及び環境に配慮した施策を行っていく必要があると考えており、15ページの「循環型(エコベジタブル)教室の推進」及び「夏休み生ごみ投入リサイクル事業」を今回の改定では具体的な施策に加えました。その他、個別具体的な取組に関するご意見につきましては、参考にさせていただきます。</p>

7	4 - (1) - ②情報の整備	<p>●ホームページのみの情報提供だと、インターネットを使えない人は情報に触れられません。 食育推進の拠点となる場（例えば公民館家事実習室でもよい）を設け、情報の収集提供、実習など食育事業の開催をおこなってはどうか？ 小浜市の食文化館を参考にしてください。</p>	<p>●市の保健センターでは、食育の拠点として健康に関する教室をはじめ、子どもを対象とした食育教室や、食育ホームページのレシピや食に関する情報提供などの取組を行ってきています。</p>
8		<p>●迅速に対応する為なのか情報の媒体がHPしかないのでは広く伝わらないと思います。 広報掲示板の決まった場所で毎月掲示する、学校からのお便りとして配布するなど、HP 以外でも広く情報発信して欲しい。</p>	<p>●また、インターネットによる情報発信のみでは、不十分なところもあるかと思えますので、いただいたご意見を参考に広報掲示板の活用について検討します。</p> <p>●他自治体の例を参考にし、公民館等とも連携を深め、より食育の拠点としての機能の充実を図れるように、市に働きかけていきます。</p>
9		<p>●各家庭の詳細な献立のアンケートなどを取り、現状の把握をしてほしいです。</p>	<p>●食育の推進に当たっては、現状をしっかりと把握した上で問題に取り組むことは重要と考えますので、食育市民アンケート調査の項目につきましては、次回アンケートを実施する際に参考とさせていただきます。ご意見ありがとうございました。</p>
10	4 - (2) 生涯わたるライフステージに応じた食育推進	<p>●子どもたちの口に入る食品がどこから来ているのか、どこの国で生産されているのか、何が入っているのか、等、消費者教育が重要かと思えます。</p>	<p>●食品の安全性については、ご意見をいただいているとおり、重要事項であると考えています。給食で使用する食材について</p>

11		<p>●遺伝子組み換え食品、食品添加物、農薬、放射性物質とさまざまな問題がつきまとう中、安全な食材を探すのが難しい時代になってしまいました。</p> <p>子ども達は、こういったことをまったく知らずに食べています。</p> <p>自分達の食べる食材が、どこでどのようにして作られたのか、動物にしてもどのような餌でどのような環境で育てられ、消費者の口に入るのか。</p> <p>食事を作るのは家庭ですし、どうか親も子ども学べる機会を望みます。</p> <p>(他に同様の意見1件)</p>	<p>は、安全性を最優先とした食材を選定していることを確認しています。</p> <p>●また、ご提案いただいたとおり、健全な食生活を身につけるため、学習の機会を設けることは必要だと考えており、本計画においては、そのような取組は16ページ</p> <p>(2)生涯にわたるライフステージに応じた食育推進の中で行われる施策の中で取り組んでいるところです。さらに、これらの活動が食の安全についてより推進されていくように、同項目の前文3行目を「一人一人が食の安全も含め自らの食のあり方について考え、選びとって作りあげていくことを通して、健全な食生活を身につけ、生涯を通じて健やかな生活を送ることができるよう支援していきます。」に変更します。</p>
12		<p>●今後は、子どもたちの口に入る食材が本当に安全なのかをしっかりと確かめるシステムや、安全な食材の確保が必要だと思えます。</p>	
13		<p>●添加物や農薬の問題に目をつむったままでは本当の意味での「食育」にはならないと思えます。</p> <p>これから成長していく子どもたちには、自分の身を守るための情報と教育が必要だと思えます。</p> <p>また子どもを持つ親、これから子どもを作る若い世代の人たちも、同じです。</p>	

14		<p>●「学齢期の食育推進」小学校・中学校において小学生から中学生までの学齢期は、子どもたちが次第に自立し、食に関する興味や関心を高めていく時期として、食育における小中学校の役割には大きな期待が寄せられています。従来から行われている授業・給食等における指導や保護者への支援の充実を図るとともに、地域と交流した食育活動を実施し、児童生徒が発達段階に応じて、毎日朝食をとる、栄養バランス、共食などの望ましい食習慣を身につけ、地産地消、食の安全・安心など食への理解が促進されるよう、学校教育活動全体で食育を推進していきます』とありますが、ここにも一步踏み込んで「食品添加物、農薬、輸入食材、そして放射能汚染などの食の安全を学ぶ」など具体的に盛り込んでください。</p>	<p>●食品の安全性については、ご意見のとおり、重要事項であると考えています。前文への具体的な記載については、ご意見を参考に検討した結果、より幅広い世代において学ぶ機会を設けられるよう、16ページ（2）生涯にわたるライフステージに応じた食育推進の前文3行目を「一人一人が食の安全も含め自らの食のあり方について考え、選びとって作りあげていくことを通して、健全な食生活を身につけ、生涯を通じて健やかな生活を送ることができるよう支援していきます。」に変更します。</p>
15		<p>●マタニティクッキング、離乳食教室などで、添加物や農薬、放射能について学べる場を設けて欲しい。震災前後で離乳食教室を受けましたが受講内容は全く同じものでした。新しく母になる人達の為に最低限必要な情報、食に関する問題に関心を持つきっかけ作りをして欲しい。</p>	<p>●市が実施するマタニティクッキング等の新しく母になる人に向けての教室では、栄養のバランスや妊娠期特有の注意事項等といった国の基準に沿って情報提供を行っていますが、添加物を含めた栄養成分表示等の食の安全についても触れられていることを確認しています。</p> <p>●離乳食教室について、震災前後で話す内容が変わらないというご指摘につきましては、講義内容に関しては、国の「授乳・離乳の支援ガイド」に準拠して実施されているため変えることはできませんが、質疑応答の時間も設けており、参加者から寄せられる質問に答えていく中で、その時々最新の情報が伝えてられていくよう努めていきたいと思っております。</p>

16	4 - (2) - ②学齢期の食育推進	●事業名一覧に、給食だより等の情報提供を充実させる、とありますが、現在各学校では給食便りの内容は栄養士任せになっており、学校栄養士の力量に寄って、かなり内容に差があります。これを市で方針を決め内容を充実させてください。	●給食だより等の学校栄養士の活動に関しては学校栄養士会等で情報を共有しているほか、栄養士の知識面や技術面については研修や講習会などで育成が図られていますが、一層の充実に向けていただいたご意見を担当課へ伝えてまいります。
17		●各小学校には図書ボランティアが組織され学校司書の作業補佐をしていますが、これに準じて給食ボランティアなる組織を提案します。新学期の給食配膳の手伝いや、試食会の運営、食育授業の手伝いなど、各学校の栄養士や調理師を補佐する組織があったら良いと思います。	●学校給食の運営の中で検討されていくものと考えています。
18		●学校から発信するだけでなく、アンケートや茶話会などで保護者からの意見や声を拾い校内の食育活動に反映できる仕組みを作りたい。 (給食の直営校には連絡協議会が設置されないようなので、給食、食育に関して保護者、給食関係者、教師など校内で話し合う場の設置を求めます)	
19		●地産地消はとてもよい食育だと思います。ただ、原発事故の影響も考えると、「地産地消」は慎重に行うべきだとも思います。特に子どもたちに関係する学校給食では、安全が確認されたものは小金井産で・・・と考えて頂きたいです。	●学校給食において安全な食材を使用することは重要事項の一つであり、学校給食の食材については放射性物質検査が実施され、安全性を最優先とした食材を選定していることを確認しています。
20		●食習慣、食への理解など知識だけでなく、技術も身につけられるような取り組みをしてほしいです。 「弁当の日」の実施をしてほしいです。	●食への理解や技術の習得は家庭科の授業等で実施しています。 ●「弁当の日」につきましては、より幅広い取組ができるよう18ページの「②学齢期の食育推進」の「ア 小学校・中学校」の中にある「家庭と協働した食育支援」という文言に実践の選択肢のひとつとして包含した形に整理をしました。さらに、1



			8ページの前文4行目に、「 <b>保護者に依存した食生活から徐々に自立し</b> 」を追加します。
21	4-(2)-③高校生から成人・高齢者等の食育推進	<p>●弁当を届けるだけでなく、一緒に話をしながら食べるボランティアなどがあると思います。また自立度が高い人たちには、弁当と一緒に食べる場を市が提供してほしいです。</p>	<p>●高齢者や障がい者の孤食対策は重要だと考えており、19ページの「障がい者や高齢者が自分に合った食生活を送り、生活の質の向上を図ることができるようさまざまな施策を展開して支援していきます」という文言を記載しておりますが、同趣旨のご意見として参考にさせていただきます。貴重なご提案ありがとうございます。</p>
22		<p>●事業 「一人暮らし高齢者の料理教室」          内容 仲間と共に一緒に料理を作り、一緒に食事をする楽しみを通し、手抜きになりがちな一人暮らし高齢者の食生活を支援する。          理由 男女を問わず、一人で食事をする孤食は、食欲を失わせ、マナー化させる。健康上も問題である。社協の翁味会のようなイメージだが、女性にも必要である。</p>	<p>●高齢者や障がい者の孤食対策は重要だと考えており、高齢者や精神障がい者の自立した食生活を支援する施策として、20ページに「配食サービス」を記載しています。また、20ページに記載のある「栄養講習会」では、成人を対象に栄養講義や調理実習・試食を行っており、参加する方の中にはご高齢の方も多くいらっしゃることを確認していますが、更に積極的な取組が促進されるようご意見を参考にさせていただきます。</p>

23	4－(3)－①生産者の食育活動に対する促進策	<p>●府中市の取り組みで「給食応援畑」というものがあります。生産場所が分かる事でより身近に安心して給食を食べられるようにと、看板を設置しています。市内で給食の供給に積極的な生産者の方の畑でもこのような取り組みはできないでしょうか？ (市内の生産者の方に以前お話を聞きましたが、給食の入札はJA経由で納入量が見合った時というお話を伺いました。学校側と直接納入できるような方法も検討して下さい)</p>	<p>●小金井産の野菜は少量多品目ということもあり、一定量を安定して確保する必要がある給食への使用につきましては、生産場所を限定することが難しいという現状があります。ご意見のような取組の実施は難しいと考えますが、今後、生産者と給食をつなぐ取組につきましては、21ページの生産者の食育活動に対する促進策の一つとして、参考にさせていただきます。</p>
24	4－(3)－②事業者の食育活動に対する促進策	<p>●担当課で生産者と給食栄養士をつなぐ仕組みを作り、日野市のように給食における地場野菜の使用率目標値を設定し、地産地消を促進することはできませんか？</p>	<p>●小金井産の野菜は少量多品目ということもあり、一定量を安定して確保する必要がある給食への使用につきましては目標値を設定することが難しいという現状があります。</p>
25		<p>●小金井らしい食生活 について ・市内の飲食店が市内産の農産物を簡単に利用できるよう、経済課などが取り次ぎをしてほしい。</p>	<p>●21ページの「地場野菜等の販売促進」として庭先直売所や事業者との連携により地産地消に取り組んでいます。今後も市が中心となって、生産者・事業者・各種団体等の食育活動を促進し、連携を強化していくよう働きかけていきます。</p>
26		<p>●日本の農業を守り、農薬に汚染されないように大地を守るために、消費者が何を買ったらいいのかの教育は大切です。そのようなことを教えてくださるNPO法人もあります。「NPO法人コミュニティスクールまちデザイン」こちらで食農共育を行っています。こういった取り組みをぜひ小金井でも行っていただきたいと願います。</p>	<p>●消費者が学ぶ機会を設けることは「野菜」にこだわった「小金井らしい食生活」の実践に欠かせないものと考えており、21ページの①生産者の食育活動に対する促進策の中にも記載しております。 ●各種団体等の食育に関する取組については、22ページの「食育関連団体登録制度」を通して関連情報の提供等を行ってお</p>

			り、様々な活動を推進しています。
27		●市内産が安全、安心といえるよう、土壌検査も併せて行い検討して下さい。	●安全で安心な市内産の作物を農家に生産・供給してもらうため、農業振興連合会では農地の残留農薬に対する土壌検査を行い、市から費用の一部が補助されていることを確認しています。
28		●チェックリストを作り、食育推進に協力的な業者を認定し、ステッカーやのぼりなどを配る。	●22ページの②事業者の食育活動に対する促進策の1番目の事業名を「 <b>事業者と連携した食育の普及啓発</b> 」とし、事業内容を「 <b>飲食店や商店でミニパンフレットを置く等、市民へ食育に関する普及啓発を推進する。</b> 」とし、担当課を「 <b>関係各課</b> 」に変更します。具体的な取組についてはご意見を参考にさせていただきます。
29	5－(2)－②市民	●市民の役割のところは、形式的な感じがします。委員の方々が考えられた末の文言だと思いますので、尊重したいと思いますが、切実な現状を変えるために、日々の食事を大切にする思い、意欲を喚起するような文言、文章がほしい気がします。	●日々の食事を大切にする思いは3ページの「小金井市の取組」及び12ページの「小金井市における食育の基本方針」にも込められています。 ●24ページの市民の役割につきましては、小金井市食育推進基本条例に準拠し記載しています。